

岡田まさあき

市政報告

令和4年3月議会

No.61

無所属・市民派

市民の目線で行動します！



1 大垣市の障がい者支援計画について

要旨

- ① 中・長期計画について
- ② 社会福祉事業団・社会福祉協議会への対応
- ③ 柿の木荘の新型コロナウイルス感染症のクラスター
- ④ 第三者評価の受審

私の質問のテレビ放映の予定
大垣ケーブルテレビ(11CH)

3月

3/20日 12:15頃～

3/22火 12:15頃～

3/23水 21:15頃～

※都合により放映時間が変更になる場合があります。

このチラシを見ながらご視聴してください。

約30分程度

2 令和4年度の商工観光課の予算について

要旨

- ① プレミアム付商品券発行事業の総括と課題
- ② 目玉事業のねらいと獲得目標
- ③ 商工観光課職員の人材育成
- ④ 観光協会のDMOの方針と人材の適切配置

My Opinion 1

令和4年度 観光費から考えること！

2019年の国の試算によれば定住人口1人当たりの年間消費額は約130万円になります。このことが意味するのは「大垣市の定住者が1名減少すれば大垣市の消費額が130万円減少する」ということです。「定住者が100人減れば年間1億3千万円の消費額が減少する」ということです。年間130万円の減少額を補う場合、旅行者の消費額に換算すると外国人旅行者であれば8人分、国内宿泊旅行者であれば23人分、国内の日帰り旅行者であれば75人分に相当します。

ところで、令和4年度の大垣市商工観光課の観光予算は約2億7千万円です。観光担当の一般職員の給料9人分3168万円です。それとは別に、時間外手当が1684万円計上されています。給料の半分に相当する残業代です。これは厳しく再考すべきではありませんか？職員の働き方改革の点からも、改善を求めます。職員はもっと観光事業について勉強し、この10年間、「イベントが観光事業だ」と勘違いしていた「失われた10年」を取り戻すべきです。職員は研修を積み、広く専門家の人材を求め、観光事業のリーダーシップをとって下さい。予算、2億7千万円の観光費に見合った職員の奮起を期待します。

My Opinion 2

商店街振興組合のあり方を問う！？

昨年、プレミアム商品券発行事業がプレミアム率50%で2回行われました。(プレミアム 4000万円×2回=8000万円)

大変な混乱を招き、また中心市街地以外の商店や商店街振興組合に非加入の商店も手数料3000円を払えば、参加できました。この事業の総括・分析・課題が、まだ、報告されていません。

私は、駅や病院やお城などと同様に、中心市街地に商店街があることは、重要な都市機能だと考えます。とは言え、商店街振興組合に投入される事業費は、市民の税金を使う事業だからこそ、適切に事業効果を上げなければなりません。

プレミアム商品券発行事業は、令和4年度のプレミアム商品券発行事業の予算は1,800万円です。そして、プレミアム率は20%です。「12,000円の商品が10,000円で買うことができる」という消費者にとって、お得な「誘い水効果」があります。プレミアム商品券発行事業を通して、商店街振興組合のお店の再発見や新規客の開拓や従来のお得意様のサービスにつながります。プレミアム商品券発行事業は、商店街振興組合員の売上や利益を伸ばすために行われるべきです。そのための貴重な「市民の税金」を使った「販売促進費」です。是非、売上や利益を伸ばし、商売の継続・雇用の促進につながり、事業継承もスムーズに行われることを願っています。また、小さなお子さんやおひとり暮らしの高齢者の方のために500円券の発行を希望します。

私は、プレミアム商品券は一斉に発行するのではなく、各商店街振興組合の状況に応じて、適切な時期に、適切なプレミアム金額に分けて、誘客をはかるべきだと考えます。各商店街振興組合の独自の事業と合わせて、各々のお店が知恵を出すことが必要です。大きなイベントは大垣市商工観光課や商工会議所に任せて、本業の商店街の振興のために頑張ってくださいと思います。